

特例認定特定非営利活動法人
ながいく

2024(令和6)年度
事業計画書

(令和6年6月1日 ~ 令和7年5月31日)

目次

令和6年度の活動基本方針.....	3
運営に関わるプログラム	6
活動プログラム.....	8
活動スケジュール	15

令和6年度の活動基本方針

理念

昨年度、私たちは何度も研修と話し合いを重ね、ながいくの理念を以下のように設定しました。

「すべての子どもが自分らしさを発揮できる社会を作る」

この理念は、子どもたち一人ひとりの個性や能力を尊重し、それぞれが持つ可能性を最大限に引き出すことができる社会の実現を目指すものです。私たちは、子どもたちが自信を持って社会で活躍できるよう支援を続けます。これにより、多様性に富み、創造的で活力ある社会の実現につながることを期待しています。

具体的には以下のような意味合いが込められています。

1. 多様性の尊重：

すべての子どもには、それぞれ異なる個性、才能、興味があります。この理念は、そうした多様性を認め、尊重することの重要性を強調しています。子どもたちが自分の特性や興味を自由に表現し、それを周囲が受け入れる環境を作ることを目指しています。

子どもたちが自分らしさを発揮するためには、安心して過ごせる環境が不可欠です。ながいくは、「子育てシェアの家ぽんぽん」での活動を通じて、子どもたちが安心して自己表現できる場所を提供します。

2. 支え合える地域システムの構築：

子と親の一人一人に、寄り添い支える人が必ず存在するコミュニティづくりを目指します。これは、子どもたちだけでなく、親も含めた家族全体を支える社会システムの構築を意味しています。子育て家庭だけでなく地域社会全体で、子どもとの関わり方を一緒に学ぶことで、公的支援だけに頼らない助け合いの環境を作ります。

また、子どもたちが社会の一員として積極的に参加し、貢献できる環境を作ることも含んでいます。これは社会全体の豊かさにもつながります。

3. 自己実現の支援：

子どもたちが自分らしさを発揮するためには、自己肯定感が重要です。ながいくの活動は、子どもたちが自分の価値を認識し、自信を持って行動できるよう支援することを目的としています。特に、「自分のことを自分で選ぶ」ことが大切だと考えており、多くの選択の経験ができるよう工夫をしていきます。

ながいくは、妊娠期から小中学生まで、幅広い年齢層を対象とした支援活動を行っています。これは、子どもの成長段階に応じて継続的に支援を提供し、長期的な視点で子どもたちの自己実現を支えることを意味しています。

定款の変更

理念を設定したことに合わせ、定款の目的と事業を変更します。

1. (目的) 第3条 変更

長久手市と近隣地域に暮らす子どもが、個性や能力を最大限に生かし自分らしい存在として成長できる社会を作るため、保護者や地域の関係団体と協力を図り、子育てについての啓発、生活及び学習環境の向上、体験の機会の創出を行い、またこれにより多様性や創造性が豊かな住みよいまちづくりに寄与することを目的とする。

理念を直接的に反映し、子どものニーズにより適した支援ができるよう、組織と活動の方向性を明確にしました。

2. (事業) 第5条 追加

この法人と同様の目的を持つ法人や個人、及び事業を支援する事業

中間支援としての活動を行うことで、より広範囲かつ迅速に目的を遂行できると考えています。

子育て支援団体から見た、長久手市が抱える子育てについての問題点

長久手市は若い世代や子育て世帯に人気の高い地域ですが、子育て支援団体の視点から見ると、いくつかの課題が浮かび上がってきます。

まず、出産前後に転入してくる家庭が多いという特徴があります。これは、新しい環境で子育てをスタートすることを意味し、周囲に頼れる知人がいない状態で子育てに直面する家庭が少なくありません。

また、長久手市は他の市町村と比較して、土地価格が高くなっています。そのため、産後比較的早くに仕事に復帰する家庭が多く、地域で十分なコミュニケーションを取る時間がありません。

このような状況は、孤立した子育てにつながる可能性があります。

さらに、「裕福だがゆとりはない」という家庭が多く存在しています。これらの家庭では、経済的には困窮していないように見えるため、周囲に相談することが難しく、問題を抱え込みやすい傾向があります。「良い家に住み良い車に乗るが、食費を削っている」ような家庭と出会うことが多いです。

一般的な意味での困窮家庭は比較的少ないものの、その分、支援活動や団体は少なく、必要な人の手が届きにくくなっています。結果として、支援を必要としている家庭が支援につながりにくい状況が生まれています。

これらの課題は、一見すると恵まれた環境に見える長久手市ならではの問題と言えるでしょう。表面化しにくい問題だけに、きめ細かな支援と、地域全体で子育てを支える仕組みづくりが求められています。

子どもたちの育ちについての課題

私たちが6年間親子を見てきて感じることは、「コロナ禍以降、非常に厳しい状況で子育てが行われている」ということです。

ひろばでの光景で特に気になる現象として、以下の3点が挙げられます：①オムツの交換回数が著しく減少している ②新生児の段階から首を支えない状態で縦抱きしており、身体が非常に硬い赤ちゃんが増加している ③ミルクを飲ませる際に抱っこせずに哺乳瓶を差し込むなどの行為が見られる

子育ての方法論は日々変化していますが、SNSや企業からの情報発信により、避けるべき方法が広まっており、子どもの健全な発育を妨げる懸念事項となっています。

また、「こどもまんなか社会」を目指す一方で、「保護者などの大人が子どもの選択を奪ってしまう」光景が身近に見られ、これはむしろコロナ禍以降、加速しているように感じられます。

特に小学校の低学年では、「自分の意見を全く言えない」「特に親の近くでは極度の人見知りをする」子どもが増加しているように見受けられます。これは、「大人にジャッジをしてもらわないと、自分の選択に自信が持てない」子どもが増えているということではないでしょうか。

長久手市が抱える子育てについての問題点と子どもたちの育ちについての課題を踏まえた、今年度の重点的な活動

1. 子育てひろばを利用する妊娠中～乳幼児の家庭に向けて

- ① 助成金などを利用し、困窮家庭や新生児の家庭を中心に、オムツの無料配布を行う
- ② 新生児の赤ちゃんの抱っこや授乳について、助産師・愛知医大の先生方と協力しながら、実践的なワークショップを行う
- ③ 初めての妊娠中の家庭と共に学生にも、啓発活動を展開する
- ④ 必要なお世話が大変になりすぎないよう、どのような支援ができるかを検討する
- ⑤ 子育てが家庭内で完結しないよう、子育てについて地域の住民も学ぶ機会を設ける

2. 就園児・小学生を中心とした取組み

- ① 夕食バイキング、フードパントリー、無料駄菓子屋など、子どもの自己選択を促すプログラムの継続
- ② 子どもが自分で選ぶことの利点を大人にも実感してもらえるような取り組みの強化
- ③ 子育てひろばや夕食提供、お弁当配布などを通じた、子どもの選択・決定機会の増加
- ④ 対話、講座、SNSなど様々な手段を用いた、取り組みの重要性の周知

3. 地域で子育てを支えるための取組み

- ① 長久手市子ども家庭課からの『利用者支援事業（基本型）』と、こども家庭庁成育局からの『「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン」策定後の具体的な取組推進事業』の実施
- ② 「子どもの権利を尊重する」ことの意味を地域全体で学び、現状認識と考え方の変革を促進
- ③ 大学生が中心となって地域連携を図る「地域連携部（仮）」の発足

4. 認定取得に向けて

- ① 令和6年10月17日までに、100件の寄付を集める
- ② お付き合いで寄付をいただくだけにならないよう、活動の趣旨を多く発信する

運営に関わるプログラム

会議

監事による監査	7月
通常総会	8月
理事会	6月・9月・12月・3月
利用者支援事業担当者会議	毎月
団体スタッフミーティング	毎月
チーム・プロジェクト会議	随時

研修

新規スタッフ研修	随時
団体スタッフ研修・NPO 法人楽歩との合同研修	毎月
スタッフ個別ミーティング	毎月

広報

団体ホームページの更新	https://nagaiku.org/
利用者向けホームページの更新	https://ponpon.nagaiku.org/
Instagram(@nagaiku3)・Facebook(nponagaiku)などでの情報発信	
LINE 公式アカウント(@nagaiku)での情報発信	
LINE オープンチャットの設置	
隔月のチラシの配布	

活動支援プログラム

1. 助成金・補助金

令和5年度 WAM 助成(補正予算事業)

長久手市居場所支援事業補助金

東海ろうきん未来応援寄付金 2024 年度

2024 年度 日本財団「子ども第三の居場所」 寄付金・支援事業

ごはん応援プロジェクト 2024

2. 物品寄付

学校給食用等政府備蓄米交付第1四半期

カネハツ食品株式会社

NPO 法人チャリティーサンタ ブックサンタ

一般の方からの寄付

3. 賛助会員からの会費

4. 一般寄付

活動プログラム

子育てひろば・おやこ食堂（事業費 5,907,367 円）

1. 事業目的

親子で楽しく時間を過ごせる「子育てひろば」と、安価で食事ができる「子ども食堂」を同時に開催します。子育ての悩みを気軽に話せる雰囲気づくりに努め、同じ時間を過ごす親子同士が知り合いになれるような工夫をしていきます。

コロナ禍も収束し外出先が増えたことと、待機児童が減り0、1歳から育休復帰をされる方が増えたこともあり、昨年までのように1日の予約があつという間に埋まってしまうようなことはなくなりました。多くの方に知っていただけるよう広報を続けると共に、支援を必要としている方が優先的に利用できるような環境も維持し続けたいと思います。

2. 事業内容

本事業は、一昨年度、昨年度に引き続き、『令和5年度WAM助成（補正予算事業）』の支援を受けて実施します。

利用者の便宜を図るため、交換用おむつを無料で提供しています。この取り組みをより多くの方に利用してもらえるよう、積極的に声かけしていきます。

また、赤ちゃんの正しい抱っこ方法について、保護者の方々に無理なく学んでもらえるよう、実践的な講座の開催など工夫します。

昨年度は公益財団法人愛恵福祉支援財団の助成により、大型の本棚を設置し、多数の絵本や紙芝居を購入できました。この充実した蔵書を活かし、今年度はさまざまな機会に絵本の読み聞かせや紙芝居の上演を行い、親子で楽しめる時間を増やします。

3. 実施予定

日時：毎週月・水・金 + 月1回日曜 10時～13時

場所：子育てシェアの家ぽんぽん

料金：大人300円 子ども無料（今年度よりおかずのおかわりは100円、困窮家庭は無料）

毎月1～3回程度、アロマセラピー・助産師座談会など、親子向けの講座を開催

参加人数：1日8組（18名）程度

4. 実施体制

チームリーダー：佐分利麻美

ひろばスタッフ：1日2名 調理スタッフ：1日1名 ボランティア：1日1～2名

出張子育てサロン・相談会（事業費 941,100 円）

1. 事業目的

今年度の目標として、子育て世帯へのアウトリーチ活動を強化するため、出張プログラムの実施に力を入れていきます。この取り組みは、予約不要で気軽に参加でき、地域の身近な場所で公共機関や企業と協力して、定期的にプログラムを開催できることが特徴で、はじめて当団体と触れ合う親子も、参加しやすいものになっています。

また、出張プログラムを通じて地域の親子と直接交流する機会を増やし、現場のニーズをより正確に把握することを目標とします。得られた情報を基に、地域の実情に即したサービスの改善と開発に取り組みます。

さらに、出張プログラムを支援者と参加者が顔なじみになる機会として活用し、より専門的な支援が必要な方々を適切なサービスにつなげる体制を構築します。

2. 事業内容

『令和5年度WAM助成（補正予算事業）』の支援を受けて実施されます。今年度よりスタートした「利用者支援事業（基本型）」と連携することで、支援を必要とする親子の早期発見と、迅速な対応を目指します。

3. 実施予定

日時：毎週火 10時～13時 ……イオンモール長久手
毎週木 10時～13時 ……市内公共施設

料金：無料

年間2～3回程度、イオンホールにて「子育てサロンまつり」を開催予定

参加人数：1日5組程度

4. 実施体制

チームリーダー：追立浩貴

出張スタッフ：1日2名 ボランティア：1日1～2名

夕食バイキング（事業費 1,280,367 円）

1. 事業目的

夕食バイキング事業は、一般的に「子ども食堂」と言われる活動です。子育て世帯への包括的な支援を目指しています。

仕事で昼間来られない家庭に対応するため夕食時に実施し、食事支援を行うとともに、子どもたちの自主性や選択力を育むことを重視しています。バイキング形式や駄菓子販売を通じて、子どもたちが自分で選ぶ機会を提供しています。

さらに、高校生、大学生、市民ボランティアの参加を促すことで、多世代交流の場を創出し、地域のつながりを強化しています。

2. 事業内容

本事業は、主にこども家庭庁の「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」の一環として実施されています。夕食バイキングの形式で、子育て家庭を対象に食事を提供しています。

利用対象者については、子育て家庭であることが条件ですが、それ以外の制限は設けていません。特に、経済的に困難を抱える家庭に対しては、無料で食事を提供しています。実際に、利用者のうちひとり親家庭等の割合が高く、最大で4割程度に達することがあります。

3. 実施予定

日時：毎週金 17時～20時

場所：子育てシェアの家ぽんぽん

料金：無料

参加人数：1日45名程度

4. 実施体制

チームリーダー：古賀めぐみ

スタッフ：1日3名 ボランティア：4～6名

放課後あそび部・スクスクール（事業費 1,828,269 円）

1. 事業目的

放課後あそび部では、放課後の子どもたちが、自分たちで行動を決めて実行できる場を提供しています。大人が関わりすぎないようにし、ケンカやケガがあることも受け入れ、できる限り自然な姿で過ごせるよう工夫しています。

スクスクールは、学校に行かないことを選んだ子どものためのプログラムですが、今年度は主に夏休みの子どもたちの遊び場を開催しています。

2. 事業内容

今年度は、体験活動として、日本財団の子ども第三の居場所支援事業による「あそび小屋づくり」を行います。

また、「東海ろうきん未来応援寄付金」により、だがしや塾を開催します。これは、コミュニケーション力やマーケティング力を身に付けながら、実際にお店の運営を体験するプログラムです。

3. 実施予定・・・通常時

日時：平日 15時（放課後）～18時

場所：子育てシェアの家ぽんぽん

料金：無料（駄菓子購入 100 円）

参加人数：1日 5名程度

4. 実施予定・・・長期休暇

日時：平日 9時～18時

場所：子育てシェアの家ぽんぽん

料金：1日 500 円（困窮家庭は無料）

参加人数：1日 10名程度

5. 実施体制

チームリーダー：古賀めぐみ

スタッフ：1日 2名 ボランティア：1～3名

無料お弁当配布・フードパントリー（事業費 1,360,000 円）

1. 事業目的

ひとり親家庭等を優先しつつ、子育て家庭であれば誰でも参加できるお弁当配布と、オムツなどの生活用品も配布するフードパントリーを行うことで、色々な家庭の困りごとにアプローチします。

2. 事業内容

主にこども家庭庁の「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」の助成を受け、弁当・食料品・おむつや生理用品などの生活用品の配布を実施しています。

今年度は、イベント的な開催は控えめにし、長期間にわたりお渡しすることで、一家庭ごとに丁寧な対応を心がけます。これにより、参加者の悩みなどをお聞きする機会を設けることを目指しています。

また、県営住宅で配布を行うなど、アウトリーチとしての開催も積極的に行います。

3. 実施予定・・・弁当配布

日時：毎月第2代4水曜日

場所：子育てシェアの家ぽんぽん・長久手市役所

料金：無料

参加人数：50 家庭

4. 実施予定・・・フードパントリー

日時：随時

場所：子育てシェアの家ぽんぽん・県営住宅等

料金：無料

参加人数：1 日 10 名程度

5. 実施体制

チームリーダー：今枝麻里

スタッフ：1 日 2 名 ボランティア：1～3 名

長久手市子ども家庭課委託事業

利用者支援事業（基本型）（事業費 3,732,584 円）

1. 事業目的

子育て家庭や 18 歳以下の子ども、または子育て関係者が利用できる相談事業です。

相談対応だけでなく、「子育て家庭を適切な相談機関につなぐ場づくり」「子育て支援に協力してくれる団体とのネットワーク構築」なども重要な事業内容となっています。

この事業は「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン」とも親和性が高く、長久手を真の意味で子育てしやすい町にするために、私たちにとって重要な位置づけとなっています。

2. 事業内容

これまでの事業に加え、困難を抱える家庭からの相談などについて、行政と連携して情報共有ができるようになりました。

今後は、より多くの方に活動を知ってもらえるよう、広報活動に力を入れていく予定です。

また、NPO 法人楽歩と共に長久手市の子ども食堂ネットワークを設置予定ですが、当面はこの利用者支援事業の一環として運営していく予定です。

3. 実施予定

日時：随時

場所：子育てシェアの家ぽんぽん等

料金：無料

参加人数：1 日 2 名程度

4. 実施体制

チームリーダー：今枝麻里

スタッフ：1 日 2 名

こども家庭庁委託事業 「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン」策定後の具体的な取組推進（地域等の特色を活かし具体的活動を推進する人材養成に係る先進事例の創出）に係る委託事業（事業費 3,717,060 円）

1. 事業目的

こども家庭庁ホームページより

令和5年12月に閣議決定された「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの100か月の育ちビジョン）」（以下、「本ビジョン」という。）について、その認知拡大に加え、全ての人の具体的な取組を推進する必要がある。

このため、本ビジョンの理念や基本的な考え方を踏まえ、各地域等の特色を活かして具体的な取組を推進するコーディネーター人材を養成し、今まで乳幼児やその保護者と関わりの少なかった人や場所をつなぐ取組の先進事例を創出することで、幼児期までのこどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増していくことを目的とする。

2. 事業内容

イオンモール長久手、NPO 法人楽歩、長久手市国際交流協会、愛知淑徳大学 CCC、名古屋外国語大学城月ゼミ、愛知学院大学村田ゼミ、長久手市社会福祉協議会等と協力し、様々なイベントと子育て家庭とのコラボレーション事業を行います。

ほか、昨年度より開催している「地域のお誕生日会」も、この事業として開催し、今まで以上にまちぐるみで子どもたちの成長を祝う機会としていきます。

また、これらのイベントに先立ち、一般社団法人ジェイスの武田信子氏による講演を実施します。これは、こどもまんなか社会を実現するために必要不可欠な「社会的マルトリートメント予防」の活動を広げるためです。今後「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン」の事業を各地で実施する際には、一般社団法人ジェイスの講演を最初に開催するよう推奨していきます。

3. 実施予定

行事予定参照

4. 実施体制

チームリーダー：田中直子

スタッフ：3～5名

活動スケジュール

通年

子育てひろば&おやこ食堂（月水金）・夕食バイキング（金）・出張サロン（火木）
子育て相談（平日）フードパントリー（随時）・お弁当配布（第2・4水）
放課後あそび部（平日）・だがし屋塾（月）

7月

駄菓子屋さんののぼり作り

8月

だがしや塾 YouTube 講座・総会・ながくて夏フェス出店

9月

国際交流協会共同の花火大会・放課後あそび部クラス会議講座・子育てコーディネーター養成講座

10月

だがしや塾コーヒーの入れ方講座・NPO 法人楽歩合同研修・愛知淑徳大学大学祭出展
イオンモール長久手共働子育てサロンあきまつり

11月

放課後あそび部ウクレレ講座・お庭に小屋づくり・NPO 法人楽歩と共働の公園掃除
大学生による託児付き英語講座

12月

お庭の小屋に色塗り・武田信子氏による子育て講座・クリスマス会

1月

愛知医科大学共働による子どものお世話講座・高齢者サロン共働の子育てサロン

2月

100ヶ月の育ちビジョン報告